



先輩普及職員からの メッセージ



人を育て、人をつなぎ、
地域を元気にする。
北海道の普及職員。





北海道の農業

冬

3月下旬、春の農作業が遅れないよう、ほ場に融雪剤を散布し、営農の準備を行います。



秋、間もなく収穫を迎える水田の風景です。好天に恵まれた収穫時期は、秋の空と実った稲穂がすばらしい景観を形成します。

春



春、馬鈴しょ（じゃがいも）の植え付け作業を行います。4月下旬から5月中旬が最盛期です。

秋



夏、小麦の収穫の様子です。秋まき小麦は7月下旬から、春まき小麦は8月中旬からコンバインなどの機械で収穫を行います。

夏



↑初夏、牧草の収穫が始まります。6月から一番草、8月からは二番草の収穫期を迎えます。



←道東や道北の酪農地帯では、このような乳牛の放牧風景をあちこちで見ることができます。



道の普及職員 5つのポイント

1 北海道ならではのスケールメリット

北海道の農業と都府県の農業を比べると、耕地面積や農業所得といった経営規模や経営形態、食料自給率などに大きな違いが見られます。北海道では広大な大地を活かし大規模で生産性の高い農業が展開されており、我が国における食料の安定供給に大きく貢献しています。

2 道外出身・道外大学卒業の方も大歓迎

道外出身の方や道外大学卒業の方が採用試験で不利になることは一切ありません。都府県とは異なる北海道の農業のことを詳しく知らないのは当然で、入庁後に覚えることができます。道の普及職員の中には、道外の大学のOB・OGが数多くいますが、就職して初めて北海道に住んだという職員もいます。

3 入庁してから身につく仕事、伸びる仕事

新規採用職員が配属された普及センターでは、先輩職員をトレーナーに任命し、日常の普及活動を通じて所内全体で新規採用職員をサポートします。また、一人前の普及職員への養成するための研修体制も非常に充実していますので、業務に必要な能力をしっかりと身につけることができます。

4 思う存分、普及の仕事に打ち込める

道の普及職員には、都府県と異なり行政や研究とのジョブローテーションはありません。原則、生涯にわたって農業改良普及事業に携わることができますので、普及職員としてじっくりと業務に専念しながら、自身のキャリアプランを立てていくことができます。

5 仕事もプライベートも充実、先輩普及職員が活躍中

669名の普及職員が道の普及事業を支えています。職員紹介のページ(10~26ページ)では、現場で活躍する先輩普及職員の姿を通して、仕事内容はもちろん、普及センターの活動内容や職場の雰囲気、さらに北海道での生活や転勤して感じたことなども紹介します。

MESSAGE 01

道の普及職員を目指す皆さんへ

現在、北海道は耕地面積1,141千ha、総農家戸数32千戸、農業産出額12,919億円で、国内の総産出額の14%を占める国内最大の食料供給地域となっています。また、食品加工や観光などの地域産業と結びつき、地域の社会経済を支える重要な基幹産業となっており、さらには私たちの生活に豊かさや潤いをもたらす農村景観など、北海道の農業・農村は道民の貴重な財産となっています。

北海道の普及指導員は、この国内有数の農業地域を生産技術と経営の面から支援しています。全道44か所の農業改良普及センター本支所等に配属された669名の普及指導員が、水稻、畑作、園芸、畜産などの各分野で安全・安心な農畜産物生産と農村地域の振興を市町村やJA等と共に進めています。

この広大な北海道の農業・農村を更に発展させていくためには、意欲溢れる若き皆さんの力を必要としています。是非、私たち669名の仲間そして農業者の皆さんと一緒に、北海道農業を盛り上げていきましょう。

令和7年2月

未来の北海道農業を支えるのは あなたです



■ 北海道出身

■ 酪農学園大学 卒業

昭和63年度入庁

農政部生産振興局技術普及課

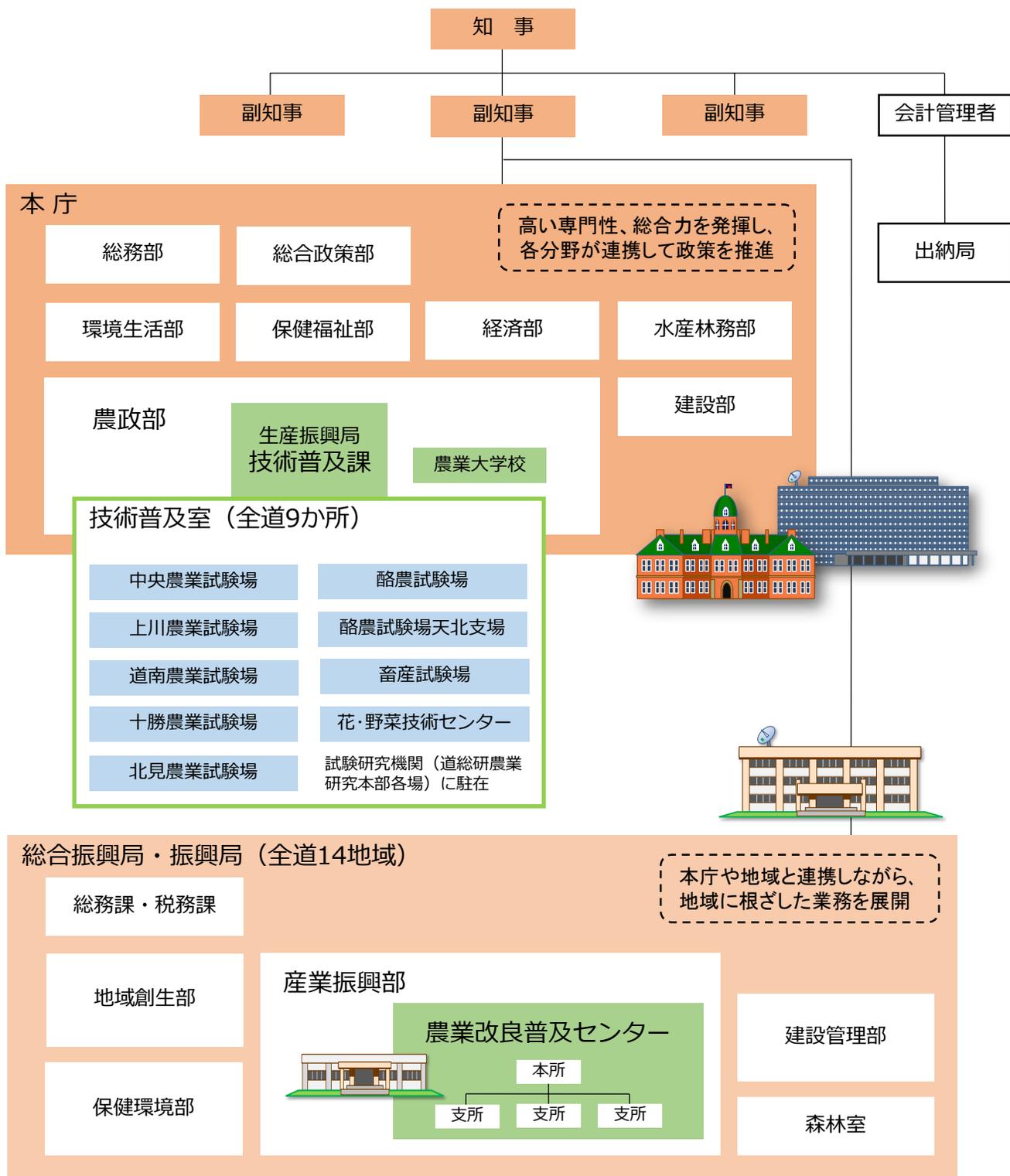
YAMAGAMI ASAKA

首席普及指導員

山上 朝香



道の普及組織図



●道の農業関係の行政組織（総合振興局・振興局）について

各総合振興局・振興局には、産業振興部に農務課や農村振興課（振興局によっては調整課、整備課及び耕地出張所）などの農業関係部署が置かれており、管内の農業改良普及センターと連携して、地域の農畜産業の振興、農地整備、農村環境等の整備などに関する仕事をしています。

（各課の主な業務）

- ・農務課 … 普及センターの運営支援、農畜産物の生産振興・付加価値向上、農業経営の改善指導、農業振興の補助金、農業関係資金、農地の利用集積、担い手の育成・確保、農業・農村の振興 など
- ・農村振興課（調整課・整備課・耕地出張所）… ほ場の大区画化、ほ場の排水整備、用水の整備 など



道の普及事業

協同農業普及事業とは

協同農業普及事業は、農業改良助長法（昭和23年制定）に基づき、国と都道府県が協同して、高度な技術・知識を有する職員として普及指導員を置き、普及指導員が直接農業者に接して農業経営や農村生活の改善に関する科学的技術や知識の普及指導を行うこと等により、主体的に農業経営や農村生活の改善に取り組む農業者の育成を図りつつ、農業の持続的な発展や農村の振興を図ろうとするものです。

普及指導員の行う事務とは

◎ 調査研究

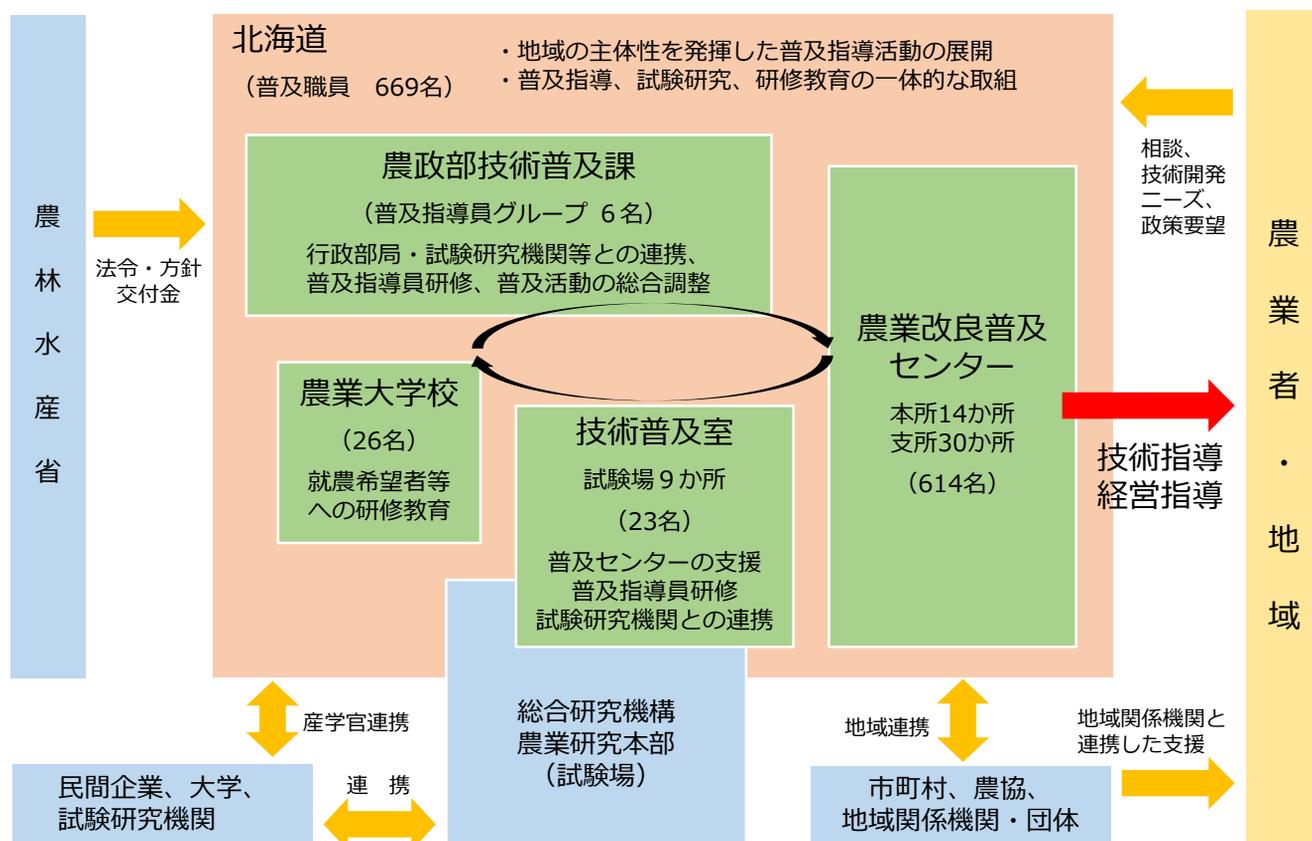
試験研究機関、市町村、農業団体、教育機関等と密接な連絡を保ち、専門の事項や普及指導活動の技術・方法について調査研究を行うこと。

◎ 普及指導

巡回指導、相談、農場展示、講習会の開催などの手段により、直接農業者に接して、農業生産方式の合理化や農業経営・農村生活の改善に関する科学的技術・知識の普及指導を行うこと。



道における農業改良普及事業の仕組み



● 農政部技術普及課の業務について

農政部技術普及課には、上図の普及指導員グループの他にも、4の係が置かれており、25名の行政職員が各所管業務を担当することで、行政と普及が連携して、農業技術の改良普及を支えています。

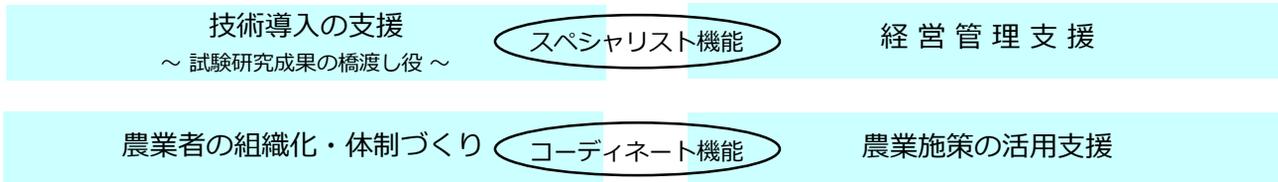
(各グループの主な業務)

- ・調整係・普及推進係 … 普及事業の組織、人事管理、予算編成、普及センター・技術普及室の運営に関すること など
- ・調整係(研究連携・スマート農業) … スマート農業の推進、農業技術・情報、農業気象、試験研究機関との連携に関すること など
- ・担い手対策係 … 新規就農、農業大学校の運営、女性農業者・高齢者の活動促進、指導農業士・農業士に関すること など
- ・農業環境係 … 植物防疫、農薬、バイオマス、肥料など生産資材、農業機械、鳥獣被害防止対策に関すること、ジャガイモシロシストセンチュウに関することなど



普及職員の業務

基本的役割



活動方法



営農技術情報の提供



道の普及事業 3つの基本理念

◎ 地域の目となり耳となる普及

地域の実情や農作物の生育状況などに的確に対応するため、普及職員のコミュニケーション能力や技術と経営の知識・経験に裏打ちされた地域課題の分析を担う地域の目となり耳となる普及活動を推進する。

◎ 農業者の側（そば）に立つ普及

農業者の経営環境や生活環境などを踏まえ、担い手の視点に立って、主体的かつ積極的に農業経営・農家生活の改善に取り組む農業者を支援する。

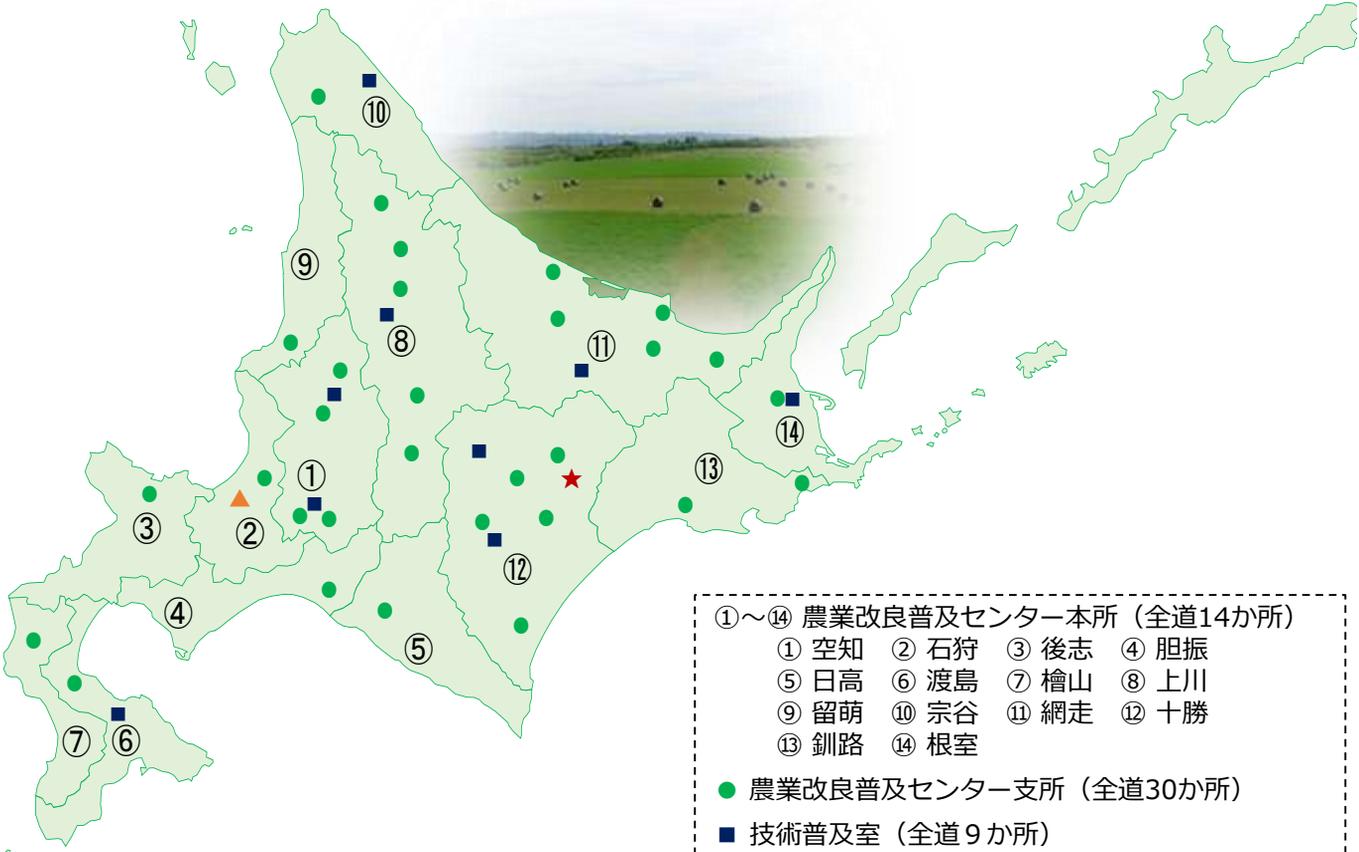
◎ 地域の知恵袋となる普及

農業・農村を取り巻く環境が大きく変化する中で、普及組織が持つ様々な技術や経営管理手法などの蓄積の活用とともに、試験研究や行政施策との連携機能を発揮し、地域の知恵袋となる総合的な提案活動を推進する。





普及職員の職場



- ①～⑭ 農業改良普及センター本所（全道14か所）
- ① 空知 ② 石狩 ③ 後志 ④ 胆振
 - ⑤ 日高 ⑥ 渡島 ⑦ 檜山 ⑧ 上川
 - ⑨ 留萌 ⑩ 宗谷 ⑪ 網走 ⑫ 十勝
 - ⑬ 釧路 ⑭ 根室
- 農業改良普及センター支所（全道30か所）
- 技術普及室（全道9か所）
- 農業研究本部
 - 上川農業試験場
 - 道南農業試験場
 - 十勝農業試験場
 - 北見農業試験場
 - 酪農試験場
 - 酪農試験場天北支場
 - 畜産試験場
 - 花・野菜技術センター
- ★ 道立農業大学校
- ▲ 農政部技術普及課

普及センターの活動事例

水稲湛水直播栽培の普及定着（羽幌町）

労働力不足等に対応するため湛水直播栽培などの省力化栽培技術の導入を提案した結果、水稲湛水直播栽培の面積が増加した。提案技術の実践により栽培技術が向上し、苗立本数が確保され、収量が向上した。



びえい農業SDGsへの挑戦（美瑛町）

労働力不足や小麦の収量・品質低下が問題となっていたため、農作業効率化につながるスマート農業技術の実証、小麦の代替作物の導入推進、若手農業者の経営管理能力の育成に取り組んだ。



世代を担う経営者育成による地域の発展（中頓別町）

農家戸数が5年間で21%減少して、地域の生乳生産量が減少したため、良質粗飼料生産・搾乳口ポットに適した乳牛管理にも着目して乳牛管理の改善に取り組んだ。



GAPの普及推進（オホーツク地域）

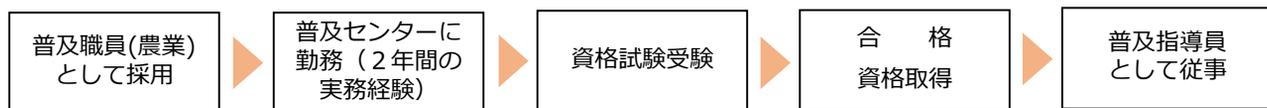
オホーツク管内の関係機関と連携したGAPの推進体制を整備し、農業者にGAPの導入を積極的に推進した結果、GAPを実践する農場や団体が増加し、産地単位で持続的農業の実践につながった。





普及職員の資格

普及指導員として任用されるには、農林水産省が実施する普及指導員資格試験に合格する必要があります。
 新規採用職員は普及職員として普及センターに配置され、資格を有する先輩職員をトレーナーとするOJTとして、直接、農家などに出向いて、生産技術の指導や各種講習会を行うなど普及指導に従事します。
 採用後2年を経過した時点で普及指導員資格試験を受験し、資格取得後は普及指導員として業務に従事します。
 なお、採用前の実務経験によっては採用後2年以内に資格試験を受験できる場合があります。



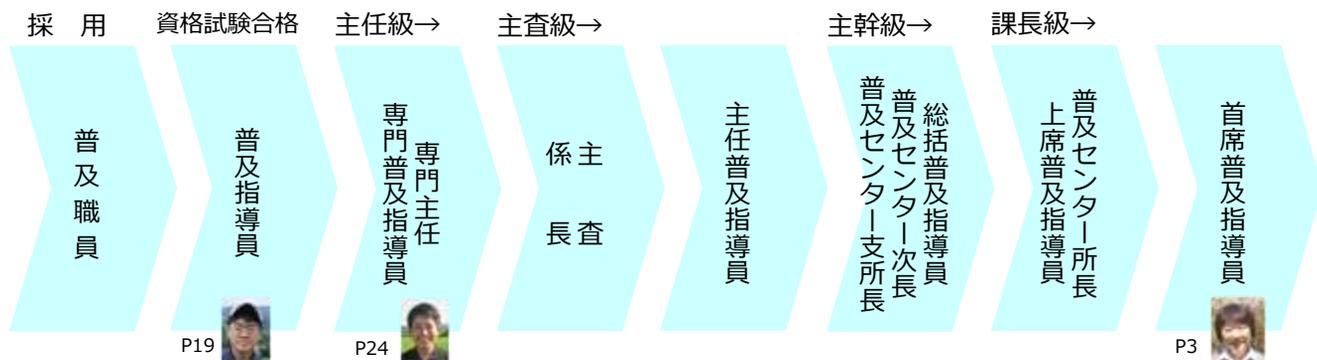
普及職員の専門項目

専門性を活かした組織的な普及活動を行うため、普及指導員一人ひとりに「専門項目」を設定しています。
 普及指導員資格試験に合格すると、**作目項目**を担当し、専門項目ごとに調査研究活動を行います。また、地域で普及指導等の実務経験を積むことによって、**作目横断項目**も併せて担当することができます。

作目項目	専門項目	活動内容
作物	稲作、畑作	稲作・畑作の栽培、出荷調整等に係る生産管理や経営管理に関する技術及び知識
園芸	野菜、花き、果樹	野菜・花き・果樹の栽培、出荷調整等に係わる生産管理や経営管理に関する技術や知識
畜産	乳牛・飼料作物、肉用牛	家畜の飼養管理、飼料作物の生産管理や経営管理に関する技術及び知識

作目横断項目	活動内容
土壌・肥料	土壌診断、土作り及び施肥技術の改善等、土壌及び肥料に関する技術及び知識
植物保護	作物に対する病害・虫害等の低減及び天敵等有用動植物の利用等に関する技術及び知識
高付加価値化	食材の利活用技術、加工・流通事業活動、農畜産物の高付加価値に関する技術及び知識
経営・労働	経営管理、労働環境の改善、農作業の安全・効率化等に関する技術及び知識

昇任の流れ



●人事異動について

・平均3年～5年で異動

場合によって異なりますが、1か所での勤務年数は3年から5年となっています。

・キャリア申告制度

人事異動に関する希望や自らのキャリアプラン、ワークライフバランスに関する考え方などを申告することができ、道として適材適所の人事配置や職員のキャリア形成支援等を実施しています。



普及職員の研修

地域や農業者から信頼される高度な技術力や経営管理手法を指導する能力、課題解決能力の向上を図るために、様々な研修が用意されています。

(主な研修)

新任者早期養成研修

採用3年目までの新任普及職員を対象に、技術や経営の基礎的な指導力、普及方法、コミュニケーション能力を習得するための研修で、集合研修や農家派遣研修など

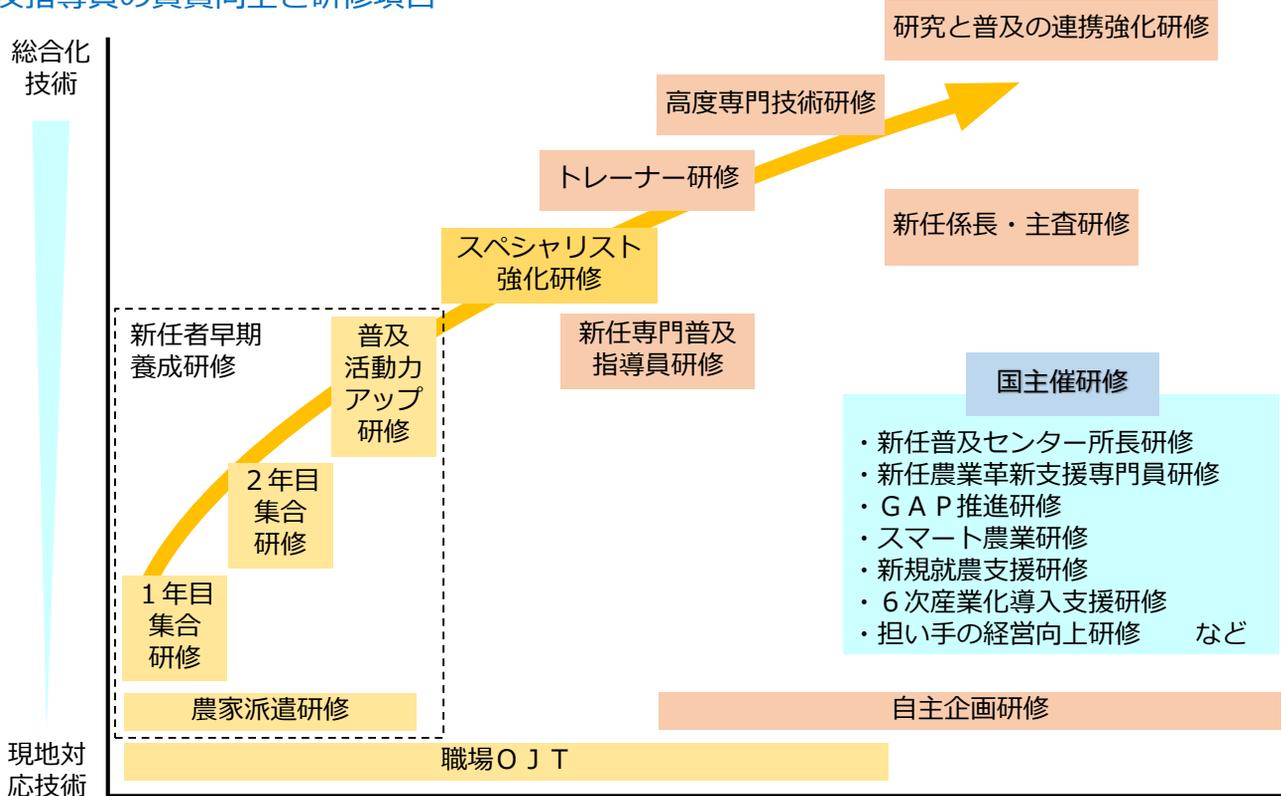
スペシャリスト強化研修

採用10年目までの普及指導員を対象に、作目毎の高度な情報や専門技術を習得するための研修

指導力養成研修

専門項目をより高度化し、地域農業の課題解決に向けて効果的な提案や指導を行う能力を習得するための研修で、トレーナー研修、新任専門普及指導員研修、高度専門技術研修、新任係長・主査研修、研究と普及の連携強化研修、自主企画研修

普及指導員の資質向上と研修項目



説得力

コーディネート力

経験年数	1年目	2年目	3年目	～10年目	～20年目	20年目以降
------	-----	-----	-----	-------	-------	--------

道が求める人材

北海道では、公務員として欠かせない資質・能力に加えて、時代や環境の変化にも柔軟に対応しながら、道としてのミッションを理解し、地域の様々な課題解決や潜在力の発揮に向けて行動できる人材を求めています。

公務への目的意識を持ち、多くの人と力を合わせて、粘り強く仕事をやり遂げる人材

責任感
協調性

幅広い視野をもち、主体的に課題を立てて、困難に立ち向かえる人材

構想力
主体性

常に改革マインドをもち、チャレンジ精神と行動力のある人材

改革意識
行動力



MESSAGE 02

一緒に北海道を
盛り上げましょう！

■東京都出身

■北海道大学大学院農学院 修了

令和5年度入庁

上川農業改良普及センター名寄支所

ONO TAKUYA

小野 卓哉



普及職員になったきっかけは？

仕事で農業に携わりたいと考えていた折、友人から紹介されて、普及職員という仕事を知りました。卒業後は、民間の会社に勤めていたのですが、「現場に出たい！」「やるなら北海道で！」という思いから一念発起し、北海道に来ました。全道各地で様々なイベントがあるので、転勤で全道を周れることも魅力の一つでした。

現在担当している仕事は？

畑作物を担当しており、栽培技術講習会や現地調査等の普及業務を行っています。業務内容は時期によって差があり、作物がほ場には種・定植される5月頃から収穫が終わる11月ごろまでは、現地に向いての調査や要請対応が多くなります。11月を過ぎて冬が来ると調査データの整理や報告書の作成等、事務的な業務が多くなってきます。個人的にはこのような業務内容の緩急も、「1年経ったなあ」と感じられるので魅力的です。

普及職員の仕事の魅力・やりがいは？

経験も浅いため、全ての仕事が新鮮で印象に残っています。「農業に携わりたい」「現場に出たい」「全道各地に行きたい」「研究とも連携したい」という自分のしたいことをこの仕事では全てできます。そのため、毎日の仕事は大変ですが楽しく感じており、そのように感じながら仕事ができることが魅力と思っています。



休みの日の過ごし方は？

バイクでツーリングしながら北海道の自然を堪能したり、家の中でプラモデルを作成したり、やりたいことを順繰りにやっています。近くのホームセンターで安い端材を買ってきて、そのとき欲しいものを作るのも好きで、ホームセンターにはよく足を運んでいます。

上司・同僚との関係や、職場の雰囲気は？

職場の雰囲気はとても良く、年の近い先輩方とは休日にテニスをしたりして、楽しい日々を過ごしています。上司や職場の上の方々も気さくに話しかけてくださる方々なので、仕事の相談もしやすく、風通しの良い職場だと感じています。

今後の目標やチャレンジしたいこと、理想の将来像は？

今後も担当の畑作物について、さらに理解を深めていきたいと思えます。また、仕事をしていく中で緑肥にも、興味が出てきたので、普及センター、関係機関、地域の農業者の意見を聞きながら、将来的な普及活動に絡めて行けたらと思っています。

道の普及職員を志望する皆さんへのメッセージ

この仕事に少しでも興味があれば、直接、普及職員とお話することが一番だと思います。僕自身も採用試験前に直接、普及職員と話すことで、気づいていなかった魅力に気付くことが出来ました。この場では伝え切れていない魅力もまだまだたくさんありますし、何より仕事へのイメージも具体化しやすいです。普及職員の業務の幅も非常に広いので、僕が挙げた内容以外にも自分のしたいことに合致する部分が見えてくるかもしれません。



MESSAGE 03



普及の力で北海道の農業を
盛り上げましょう。

- 北海道出身
- 酪農学園大学酪農学部 卒業
- 元 農協職員

平成29年度入庁

網走農業改良普及センター遠軽支所

YOSHIDA KOUHEI
吉田 光兵

普及職員になったきっかけは？

私は道内出身で大学卒業後は農協職員として営農指導課と生産資材課で4年間勤務していました。そこで普及員の人と一緒に仕事をしているときに「全道各地で農業現場に携われる仕事がしてみたい」との思いから、普及職員の採用試験を受験し、平成29年から北海道の普及センターで働くことになりました。

現在担当している仕事は？

現在は遠軽町、湧別町上湧別地区で畑作、園芸農家を中心に巡回しています。園芸に関しては、たまねぎの品種比較試験や青空教室を通しての技術支援、畑作では秋まき小麦、大豆の生育調査を実施しています。特に、重点対象地区の遠軽町生田原安国地区では大豆の栽培を昨年からは開始したので、は種前の栽培支援、現地講習会などの栽培支援を積極的に実施しています。

普及職員の仕事の魅力・やりがい、印象に残っている仕事は？

係内や自分で設定した目標や課題をやり遂げたとき、関係機関や農家さんと協力して課題解決に取り組んだときにやりがいを感じます。印象に残っていることは、大豆の講習会で、はじめて講師を務めたときに農家の方から助言等をいただき助けてもらったりしたことです。



休みの日の過ごし方は？

買い物や観光を含め他地域などに外出することが多いです。また、オホーツクでは若手職員を中心に普及指導員資格試験対策や一太郎の使い方等を学習する「自主ゼミ」という活動を年4～5回開催しているので、若手の集まりにも積極的に参加しています。

今後の目標は？

自分自身の力で畑作・園芸農家を巡回し、技術指導、現場対応できるようになることです。また、生産者や関係機関に頼られる存在になることです。そのためにも、たくさんの人と関わり協力・連携して業務を進められる普及員を目指していきたいです。

上司・同僚との関係や、職場の雰囲気は？

現在16名所属する遠軽支所では、若手職員も増え、先輩・後輩問わず仲良く業務を行っております。業務等で困ったときは気軽に相談できる環境です。また、職場では業務内容以外にもプライベートの話などの雑談も交えるなど明るい雰囲気となっています。

道の普及職員を志望する皆さんへのメッセージ

農業の技術を身につけることはもちろん、農家や関係機関との関わりを持つことも非常に重要です。普及員だけでなく、農家や関係機関の協力があって始めて普及の仕事が成り立つと思います。そのため、生産者や関係機関のつながりを大切にしながら普及の仕事を進めていくことで自分自身も成長していくと考えています。入庁してから資格試験の勉強等大変かと思いますが、一生懸命努力すれば、たくさんの知識が身につきます。

MESSAGE 04



農業は楽しい!!

■ 兵庫県出身

■ 酪農学園大学循環農学類 卒業

令和3年度入庁

十勝農業改良普及センター十勝南部支所

SUMINO ASAKO
住野 麻子



普及職員になったきっかけは？

畜産に興味があったものの、出身地の近くでは農場を持っている大学が無かったため、せつかくなれば農場を持っており牛が近くにいる環境で学びたいと思い、北海道の酪農学園大学に進学しました。就職の際にも、より農家さんと近い環境で働きたいと思い、北海道での就職を決めました。

現在担当している仕事は？

乳牛・飼料作物に関する現地対応や担い手の業務を担当しています。現地対応では、常に牛の様子や飼料作物の生育具合にアンテナを張る必要があると考え、巡回を行なっています。気がついたことを農家さんと共有し、一緒に考える時間は面白く、この仕事の醍醐味だと感じています。担い手の業務は、若手農業者の意見発表に向けた資料作成の補助や経営継承・新規就農の支援などです。年が近い方と係わることが多く、刺激を貰います。



普及職員の仕事の魅力・やりがいは？

この仕事の魅力は牛のプロである農家さんと牛についてお話を出来ることです。何十年もの経験値を地域の農家さんから聞けることが自分自身の学びにもなり、面白いと思えるところです。また、農場へ通ううちに普段の疑問などを農家さんから話していただくと、相談相手として少しは成長出来たかなと嬉しく思います。

上司・同僚との関係や、職場の雰囲気は？

積極的に現地に出られる環境です。また、現地で感じた疑問なども上司に話しやすい雰囲気や、思う存分勉強出来ると感じています。農家さんに提案したい内容を見てもらう際にも、自分ではまだ思いつかないような着眼点で指摘していただき、毎回勉強になります。

休みの日の過ごし方は？

自分のやりたいことや見たいものを経験する時間にしています。酪農の勉強会に出る時もあれば、友達や地域の方たちと過ごす時もあります。最近是对面朗読（視覚障害がある方に向けての朗読サービス）ボランティアの仲間に入れて頂き、活動しています。



今後の目標やチャレンジしたいことは？

とにかく経験値を積むことを目標としています。今は自分に足りないものが多すぎて、それらをひとつひとつ学んでいくことで精一杯なので、具体的な将来像はあまり考えつかないのですが、農家さんとの会話を大事にすることは忘れない普及員でいたいと思います。

道の普及職員を志望する皆さんへのメッセージ

気力と体力が必要な仕事だと思います。ですが、分からないなりに、自分が学びたい、地域のためになにかしたいと行動すると、農家さんや普及員の先輩方は「面白い」といって答えてくれます。そういう、面白がりながらできる仕事が私はとても好きです。ぜひ、みなさんともこの気持ちを共有できたらなと思います。



MESSAGE 05

未来の農業を育む、
やりがいのある仕事です

■北海道出身

■道立農業大学校

農業経営研究科 卒業

令和3年度入庁

空知農業改良普及センター本所

KODAMA

SAE

小玉 紗瑛



普及職員になったきっかけは？

普及職員を目指したのは、進学した道立農業大学校の先生方が普及職員と言うこともあり、仕事内容などを聞いて、自分に合っていそうだと感じ、志望しました。農業者の近くで働けること、色々な地域の農業に触れられることなど楽しく働けそうというのが普及職員を選んだ決め手になりました。

現在担当している仕事は？

道内屈指の水田地帯である岩見沢市・三笠市で水稻を専門に業務を行っています。この地域は乾田直播栽培の先進地でもあるので、水稻の直播栽培に関わる仕事が多いです。近年は、低コスト・省力化へ向けた施肥体系を検討するため、肥料の比較試験を行っています。その結果は栽培講習会や成績検討会などで利用し、情報提供や技術提案を行っています。



上司・同僚との関係や、職場の雰囲気は？

空知本所は現在23名在籍しており、他の普及センターと比べ、人数の多い職場です。頼りになる上司や先輩が多く、分からないことはすぐに聞けるので、日々勉強しながら普及活動を行っています。

休みの日の過ごし方は？

ドライブが好きなので、道の駅巡りをしたり、実家の愛犬に会いに帰省したりすることが多いです。もしくは家でのんびりゲームやVTuberの推し活をしています。休日は、仕事のことを忘れてリフレッシュしています。

普及職員の仕事の魅力・やりがいは？

先輩の教えもあって、採用1年目から農業者の前に立って話す機会が多くありました。先輩方が沢山機会を作ってくれたことで、声をかけてくれる、名前を覚えてくれる農業者が増え、私自身も農業者のことを覚えるようになり、更に仕事のやりがいにつながりました。



今後の目標やチャレンジしたいこと、理想の将来像を教えてください。

今後は水稻の技術や知識を深めつつ、畑作などの他品目や経営労働に関する事も勉強して、できることを増やしていきたいです。そして農業者や関係機関から頼って貰えるような普及職員を目指していきたいです。

道の普及職員を志望する皆さんへのメッセージ

普及職員の仕事は、農業者や関係機関の人と関わる機会がとても多い仕事です。農業の知識や技術は確かに重要です。ただ、まずは分からなくても伝える努力、伝えたいと思う気持ちが重要だと思っています。「普及職員はどんな仕事をしているんだろう」と興味を持ったら、ぜひ気軽にインターンシップに参加して、普及職員の仕事を体感してみてください。



MESSAGE 06

やる気, 元気, とうもろこし!!



- 北海道出身
- 東京農業大学農学部 卒業

令和2年度入庁

十勝農業改良普及センター十勝北部支所

S U Z U E Y U U G O
鈴江 友護

普及職員になったきっかけは？

私は大学時代に畜産を専攻し、卒業後は農水省所管の独立行政法人に5年間勤務しました。転職するにあたり、いつか地元北海道に貢献したい、生産現場に出たい、自分で考えて仕事を作る機会が多い職を希望していました。Web等で調べた結果、条件を満たせそうだったのが普及職員だったので、A区分の採用試験に応募しました。

現在担当している仕事は？

十勝管内で畜産を担当しています。業務内容は主に、家畜の飼養管理と飼料作物栽培の相談に応えることです。また、それ以外に地域の問題の解決方法を探るために、試験や調査などを行っています。具体的な業務としては、ほ育舎の環境改善、飼料作物の施肥量や銘柄選定・雑草の防除方法に関して、説得力のある回答をするため“見える化”を心がけ、説得力を持って農業者の疑問に応えられるよう努めています。

普及職員の仕事ややりがい、印象に残っている仕事は？

ある農場において、冬場なのに子牛が暑さでバテているように感じていました。そこでほ育舎の温度を測定し、“見える化”したところ、昼間の温度が意外にも36℃まで上昇していることがわかりました。その後、日射対策をしたことで、ハウス内の温度は適温になり、農業者の方に感謝してもらえたことが嬉しかったです。



休みの日の過ごし方は？

休日は趣味の登山、温泉巡りや水泳をして楽しんでいます。特に登山は学生時代からの趣味で、同僚や地域の友人を誘って、テント泊登山をするなどして楽しんでいます。また、昨年子どもが生まれたので、子どもを連れて公園で遊ぶなどして過ごしています。

職場の雰囲気は？

職場は上司も同僚も話しやすい方が多く、業務やプライベートの相談がしやすいです。また、重点地域活動などでは、各専門にとらわれず、共通の目標達成に向けて、係のメンバーで一致団結して頑張っています。

今後の目標やチャレンジしたいこと、理想の将来像を教えてください。

先入観にとらわれずに、積極的に幅広い分野にチャレンジしていくことで、自分の引き出しを増やしていきたいです。知識だけでなく、現場ごとの事情や他人の気持ちに寄り添うことのできる、柔軟な提案ができる普及職員を目指します。

道の普及職員を志望する皆さんへのメッセージ

普及職員は、ルーチンワークよりも自分で仕事を見つけてくる場面が多く、自分で考えて行動できることや想像力が重要です。もちろん、専門性も大事ですが、それは好奇心と貪欲さを持って仕事をしていけば、後からでも自然と身につくと思います。それよりも、今の与えられた環境で精一杯努力した経験が何より大事だと思っています。とてもやりがいがある仕事だと思えますので、ぜひ職業選択の選択肢に入れてみてください！



MESSAGE 07

人を耕す 耕される

- 愛知県出身
- 東京農業大学生物産業学部 卒業

平成30年度入庁

網走農業改良普及センター清里支所

INUTUKA SHIYOU
犬塚 紫陽



普及職員になったきっかけは？

大学進学時に北海道に来ました。元々、北海道での生活に憧れており、農業に興味があったことや公務員を目指していたこともあり、普及員に魅力を感じていました。大学でのガイダンスや研究室の先輩、教授の話などが決め手となりました。

現在担当している仕事は？

オホーツク管内の斜里町で畑作を担当しています。小麦、馬鈴しょ、てん菜、豆類の定期的な作況調査や新品種の栽培試験を通じて、農業者に情報提供を行っています。また、関係機関と連携し、地域の共同作業組織や青年組織の支援など、担い手に関わる業務も担当しています。

普及職員の仕事の魅力・やりがいは？

農業者や関係機関と話す機会が多く、自らも作物に直接触れることができるため、農業に関わる情報を様々な視点から考えることができる魅力があると思います。現場作業とデスクワークのバランスも良く、自身が担当した試験の結果が現場に還元されるなど、仕事のやりがいを感じる機会も多いです。



休みの日の過ごし方は？

旅行や登山、マラソンなどを楽しんでます。北海道内の移動手段は基本的に車なので、車中泊やキャンプを活用し、まだ行ったことのない新しい場所を見つけるのを楽しみにしています。最近は一泊二日を取得したため、海外旅行にも挑戦しています。

上司・同僚との関係や、職場の雰囲気は？

事務所の人数は14人で、係は4人で活動しています。係内では定期的に業務の進捗状況を確認しつつ、和やかな雰囲気です。職場全員が農業に関わる仕事をしているため、共通の話題も多く、仕事の合間に北海道各地の情報を収集しています。

今後の目標やチャレンジしたいこと、理想の将来像は？

まだ異動を経験したことがないので、新天地での生活を楽しくしています。各地で仕事をしながら、北海道の農業全体に関われるような普及員になりたいです。



道の普及職員を志望する皆さんへのメッセージ

日々変化する農業情勢や、気象変動などもあり、農業には「これが正解」というものは無いと感じています。その中で、何がより良いのかを農業現場で一緒になって考えることができる仕事だと思いますので、北海道の農業に直接関わりたい人はぜひ普及員を目指してみてください。



MESSAGE 08



毎日楽しみです。

- 北海道出身
- 弘前大学農学生命科学部 卒業

令和元年度入庁
十勝農業改良普及センター本所

MANABE TOMOHIKO

眞鍋 朋彦

普及職員になったきっかけは？

北海道の農業に関わる仕事をしたいと思っていました。いろんな仕事がある中でより現場に近い仕事ができる普及員という仕事を知り、志望しました。

上司・同僚との関係や、職場の雰囲気は？

十勝本所は、現在20名と比較的大きな事務所です。人数は多いですが、職場内は和気あいあいとしていて話しやすい雰囲気です。また、日頃の業務の中で、わからない点や疑問点があっても聞きやすい先輩ばかりですので助かっています。

現在担当している仕事は？

私は十勝本所で畑作担当として、業務を行っています。十勝は全道屈指の畑作地帯です。未だにわからないことだらけなので、わからないことは職場の上司や時には農業者にも聞いて日々勉強しています。

今後の目標やチャレンジしたいこと、理想の将来像は？

なにかあったらすぐに農業者から連絡・相談がくるような普及員でありたいです。日頃から連絡・相談が絶えない先輩をみると、農業者からの信頼が抜群でした。そんな普及員になれたらと思っています。



普及職員の仕事の魅力・やりがいは？

日頃から農業者に、「ありがとう」や「助かった」と言ってもらえることがやりがいです。そういった言葉をもらえると、「また次もがんばろう」と思えるので、次の仕事のモチベーションにも繋がる点も魅力だと思います。



休みの日の過ごし方は？

ドライブが好きなので、車で全道各地いろんなところへ行ったりしています。また、職場の先輩と仕事終わりに温泉に行ったりしています。

道の普及職員を志望する皆さんへのメッセージ

普及員の仕事を、一言で表そうといっても中々難しいです。先輩方でも様々な仕事の仕方がある中で、それぞれ自分にあった仕事の仕方を行っています。そういう自分にあった仕事の仕方ができるのも普及員の魅力です。ただ、仕事のやり方は違えど、“地域農業や農業者のための仕事”という部分は普及員全員一緒だと思います。もし、地域農業や農業者のために仕事がしたいという方は、是非採用試験を受けてもらえればと思います。インターン等もお待ちしております。



MESSAGE 09

毎日が新発見!

- 岩手県出身
- 弘前大学農学生命科学部 卒業

令和元年度入庁
十勝農業改良普及センター十勝東部支所

TAKAHASHI MIRAI

高橋 未来



普及職員になったきっかけは？

漠然と、農業現場に足を運び、生産者の近くで働く仕事がしたいと思っていました。しかし、時間や収入の安定した公務員も捨てがたい…。そんなとき、大学の就職説明会で普及職員という仕事を知りました。北海道では全国で唯一、農業改良普及員だけの採用試験を行っているので、北海道で普及職員になることを決めました。

現在担当している仕事は？

私は十勝管内で畜産担当をしています。畜産農家と一緒に、どうしたら牛の病気が減るのだろう、どうしたら乳量が増えるだろう、どうしたら経営がもっと上手くいこう、と毎日考えています。地域農業の発展のためには、まず、個々の農業者に経営利益を高めてもらうことが大切です。農業者ごとにやり方も状況も違う中で、「この牧場ではどうやったらより儲かるか」を考え、取組を見つけていくのが主な業務と感じています。



普及職員の仕事の魅力・やりがいは？

普及職員の魅力は「チーム」で仕事をする事だと思います。慣れれば一人で現地に行くこともありますが、分からないことや気づいたことは持ち帰り、先輩や上司と相談して一緒に決めます。また、農協や町役場など地域の関係機関とも協力して活動するので、地域農業を支える大きな「チーム」の一員なのだ実感します。

上司・同僚との関係や、職場の雰囲気は？

コミュニケーションが多い職場だと思います。仕事に関する報連相はもちろん、プライベートの話で先輩に相談に乗ってもらったこともあります。個性豊かな同僚がいますし、毎年、人事異動があるので同じ雰囲気ということはなく、新鮮な気持ちで楽しんでいます。

今後の目標やチャレンジしたいことは？

話しやすい人、相談しやすい人、きっと味方になってくれそうな人、そんな普及員を目指しています。技術や知識がしっかりあることはもちろんですが、人として地域に必要なとされている先輩の姿を見て、カッコいいなと思ったので目標にしています。

道の普及職員を志望する皆さんへのメッセージ

数ある職業の中から、普及職員を見つけ出し、興味を持っていただいております。農業関係の仕事の中で、普及職員は最も「生産現場に近い」仕事だと思っています。必要な知識は現場で身につけていくので、心配しなくても大丈夫です。先輩や農業者、関係機関の方々にたくさん教えていただいて、育ててもらったものだと思います。皆さんの農業への好奇心が、普及職員という形で、農業現場に活かされることを願っています。



MESSAGE 10

人と関わるのが好きな
あなたにおすすめの仕事です！

- 北海道出身
- 岩手大学農学部 卒業

令和2年度入庁
根室農業改良普及センター北根室支所

FUJII MAKOTO
藤井 真琴



普及職員になったきっかけは？

私は大学で畜産について学び、卒業後も畜産業に関わる仕事がしたいと考えていました。農業者になることも考えましたが、私は自分が事業主となって働くよりも、人を支援する方が性に合っていたので普及員を志望しました。

現在担当している仕事は？

私は、中標津町で畜産担当として働いています。業務内容は主に、乳牛の飼養管理改善や良質粗飼料生産の支援などを行っています。また、女性農業者向けの学習会を年5回ほど企画・運営し、改善への意識啓発を行っています。ここでは、酪農技術から農村生活まで幅広く勉強し、女性ならではの視点で活発な意見交換が行われています。

普及職員の仕事の魅力・やりがいは？

1番の魅力は、現場で活動し農業者を支援できる点だと思います。農業者と信頼関係を築き、ともに改善に取り組んでよりよい経営を目指していく時にやりがいを感じます。
今までの仕事の中では、子牛を元気に育てられない問題を抱える農場で技術改善を行い、農業者が楽しく仕事できるようになった時は、頑張った良かったと思いました。

休みの日の過ごし方は？

自然豊かな根室で、アニマルウォッチングを楽しんでいます。今年は養老牛温泉でシマフクロウやシマエナガを、知床クルーズでシャチとマッコウクジラを見ることができました。次回の目標は、高性能カメラを購入してクロテンとミンククジラを激写することです。



上司・同僚との関係や、職場の雰囲気は？

風通しがよく、新人でも意見が言いやすい職場です。少数の事務所なので、職員同士仲良く協力しながら業務に当たっています。頼りになる先輩職員も多いので、不安なく仕事することができそうです。

今後の目標やチャレンジしたいこと、理想の将来像は？

今後は、酪農技術はもちろん、畑作など他作物の技術も勉強し、視野を広げていきたいと考えています。将来は、技術力と現場経験をあわせ持ち、地域の農業者から信頼される普及員を目指します。

道の普及職員を志望する皆さんへのメッセージ

普及職員の仕事は、農業者を支えることで地域の存続を図ることだと思います。とはいえ、何のことも全く想像がつかないと思います。百聞は一見にしかず、ぜひインターンシップにご参加ください。優しい先輩たちが楽しく仕事の風景を見せてくれますよ！就職活動はハラハラドキドキの連続ですが、応援しています！一緒に働ける日を楽しみにしています。



MESSAGE 11



気になっただけ
聞きに行けばいい

- 愛知県出身
- 秋田県立大学大学院生物資源科学研究科生物資源科学専攻 修了

令和4年度入庁

胆振農業改良普及センター本所

TAKAGI SYUNYA

高木 駿弥

普及職員になったきっかけは？

北海道産のじゃがいも・玉ねぎ・にんじん、牛乳、そしてきらら397。それらが愛知のスーパーに堂々と陳列されており、幼い頃から北海道農業のスケールの大きさを感じていました。時が経ち、大学の同級生から道の普及職員について話を聞き、あの北海道農業に関われるチャンスだと思い志望しました。

現在担当している仕事は？

胆振西部地域で畑作を担当しています。胆振西部は洞爺湖や登別温泉などがある道央地域で、初めて辞令を聞いた時はどこか分かりませんでした（笑）。メインは秋まき小麦の安定生産支援で、現地で生育状況・病害発生状況について調査、技術情報の発信をしています。これまで畑作物に触れたことがなく、北海道でしか栽培されていないてんさいなども扱いますが、センター内の先輩方に教えてもらいながら業務を行っています。

普及職員の仕事の魅力・やりがいは？

採用一年目の夏に園芸農家さんの元で2週間お世話になり、農作業を学んだ研修が一番印象に残っています。朝4～5時からきゅうりを収穫して、昼までスイートコーンを選別・箱詰めする、という非農家出身の自分にとってハードなものながら、とても新鮮で、農作業の大変さが身にしみた貴重な経験でした。

上司・同僚との関係や、職場の雰囲気は？

農作物のバラエティに富んだ地域のため、専門関係なくみんなが協力しあう職場となっています。年代が離れている先輩方が多いですが、皆さん道内をあちこち転動しているので、各地域の農業や美味しいものについて話が聞けて面白いです。

休みの日の過ごし方は？

週末にご飯を食べに行くことが楽しみの一つです。スープカレーやザンギ、焼き鳥など、ローカル料理が豊富にあるので新鮮な気持ちでいただいています。



今後の目標やチャレンジしたいこと、理想の将来像は？

今は知識・経験ともに未熟なため、職場の先輩方や農家さんにお世話になっている状態です。そのため、少しずつでも色んな現地や農家さんの元に赴き、交流し、学び、いつか「立派になった」と言ってもらえる普及職員を目指していきたいです。

道の普及職員を志望する皆さんへのメッセージ

「大学・大学院で学んだことを活かせるか」を重視される方は多いと思われます。試験方案の組立て・現地調査・農家さんへ向けた発表・報告書作成など、普及職員の業務には卒論・修論・学会発表のために流した「努力」を活かせる場面が多くあります。農業は奥深く、北海道はとても広いです。北海道という、日本農業で一番大きいフィールドで働ける仕事の一つとして、普及職員に興味を持っていただけたらと思います。



MESSAGE 12



勉強の毎日です。

- 北海道出身
- 帯広畜産大学畜産学部 卒業

令和2年度入庁
網走農業改良普及センター本所

YAMADA EMIKO
山田 笑子

普及職員になったきっかけは？

祖父母が農家で、小さい頃から農業は身近な存在でした。大学で畑作を学び、北海道で農業に関わって、より現場に近い仕事がしたいと考えていました。大学の企業説明会で普及職員の仕事内容を知り、志望しました。

現在担当している仕事は？

私は北見市で畑作の担当をしています。畑作物（麦類、ばれいしょ、てんさい、豆類）の生育調査や試験等を行い、農業者に対して適切な栽培管理に関する情報提供や、安定生産に向けた技術を提案しています。また、若手農業者や女性農業者に対する支援も行っています。

普及職員の仕事の魅力・やりがい、印象に残っている仕事は？

係内や先輩に相談しながら、ある程度自分の裁量・ペースで仕事を進められます。その分責任もありますが、農業者から感謝の言葉をいただいたときは、素直にうれしいですし、仕事のモチベーションにもつながります。

上司・同僚との関係や、職場の雰囲気は？

若手を気にかけてくれる先輩方が多いので、業務の中で困ったことや疑問があったときに相談しやすい雰囲気だと思います。各専門分野の先輩に教えていただきながら業務を行っています。年に数回、職場の飲み会もあり、交流を深めています。



休みの日の過ごし方は？

休みの日は、友達に会いに遠出をしたり、旅行やライブに行ったり、冬はスノーボードをするなど、外出することが多いです。



今後の目標やチャレンジしたいこと、理想の将来像を教えてください。

まずは農業者に教えてもらいながら、専門知識を深め、技術力を高めたいです。農業者に信頼され相談しやすい存在でいること、相手に寄り添い一緒に考える姿勢を忘れずに仕事に取り組んでいきたいです。

道の普及職員を志望する皆さんへのメッセージ

普及職員の仕事は多岐にわたるので、中々仕事内容が想像できなかつたり、不安に思うこともあると思います。私自身もそうでしたが、現在は同じ職場の先輩はもちろん、農業者や関係機関の方々にも教えていただきながら業務を行えています。様々な方と関わりを持ちながら、北海道農業のため、農業者のために働ける仕事です。



MESSAGE 13



やった分だけ、やりがい
返ってくる 仕事です!!

- 静岡県出身
- 信州大学農学部 卒業

平成29年度入庁
道立農業大学校教務部

KINPARA NOBUHIRO
金原 伸大

普及職員になったきっかけは？

大学を卒業後、本州の肥料メーカーの営業担当として就職。北海道に転勤してきた際に、先輩にまず行けと言われたのが農業改良普及センターでした。それから普及職員と仕事をともにすることが多く、その中で農業者に限らず様々な立場の人から頼られる北海道の普及職員に次第に憧れを抱き、転職に至りました。

現在担当している仕事は？

一つ目は学生（稲作経営専攻コース）の担任業務です。農業簿記や経営分析に関する授業のほか、各種研修・実習支援、普段の勉強や学校生活に関する相談に対応しています。
二つ目は一般研修に関する業務で、道内の農業者らが参加する農業大学校での研修（栽培技術～経営分析の研修）を開催するにあたり、裏方業務として外来講師の依頼（自身が講師になることも？）や、研修生の受入準備等を行っています。



趣味は蝶の採集

異動を経験して感じたことは？

私は「転勤＝新しい挑戦の機会」と捉えています。困っている人の話を聞き、共に悩み、提案するという仕事の手法は前職の時も転職してからも同じでしたし、そのスタンスがどこまで通用するのかを、転勤を機にいろんな場面で確かめていこうと思っています。

普及職員の仕事の魅力・やりがいは？

普及職員の仕事は、農業者への新しい技術の普及や作物の生育収量調査など比較的地味なものが多いです。しかし、その分地域に根を張って現場の課題と向き合えることで、効率・成果重視であった民間企業にいた頃にはなかった農業者の『生』の反応を見ることができました。まさしく、そこがこの仕事の魅力だと思います。

理想の将来像は？

最初に抱いた憧れ通りに、誰からも頼られる「地域の窓口」となる事が理想の将来像です。そのために、研修等により自身の専門知識を深めるとともに、自分なりの地域マネジメント手法（関係機関との連携等）を日々業務の中で勉強しています。



道の普及職員を志望する皆さんへのメッセージ

日々変化する世界情勢、食糧危機への不安等から、日本農業に対する世の中の関心は高まっています。特に北海道は日本農業の柱である一方、労働力不足等、他の問題も抱えながら生産能力の維持向上を図らなければならないという大きな課題を抱えています。そして、その最前線で農業者と共に働ける普及職員という仕事は、大変な反面、「やりがい」もこれまでになく高まっています。少しでも興味を持った方、一緒に働きましょう！



MESSAGE 14&15



「ありがとう」の言葉が原動力!

(写真左) 2年目職員

■北海道出身

■千葉大学大学院園芸学研究科 修了

令和4年度入庁

日高農業改良普及センター日高西部支所

SASAMURA

SEIYA

笹村 星夜

普及職員になったきっかけは?

道外で過ごすうちに北海道の魅力を再認識し「道内に就職したい」と考えていました。そんなとき、道庁で普及員として働いている叔父と話す機会があり、この仕事の存在を知りました。「やりがいのある仕事だ」という叔父の言葉に魅力を感じ、自分も普及職員として働きたいと思うようになりました。

現在担当している仕事は?

平取町と日高町の園芸を担当しています。主な業務は、大玉トマトの栽培技術指導や新技術の実証、新品種の現地適応性調査などです。日高西部地区は新規就農者が多いので、研修生向けの栽培講習会を開催したり、新規の方を定期的に巡回する等、定着に向けた支援も行っています。

笹村さんにとって、小川さんはどのような存在?

小川さんはハウス野菜に精通しており、その知識量にはいつも驚かされています。また、農業者との接し方、栽培技術の伝え方、普及員としての礼儀など、仕事をする上でのお手本でもあります。10年後に今の小川さんのような普及員になっていることが現在の目標です。

トレーナーとしての心がけていることは?

話かけやすい雰囲気を出そう、心がけています。若手職員は分からないことが多いと思うので、何でも相談しやすい環境が重要と考えます。また、一緒に外勤することも多いことから、車中では趣味や休日のネタ等の世間話から、日頃の悩みや愚痴・仕事の進捗具合を聞いたり積極的に会話をしています。

新人時代の思い出は?

仕事面では、先輩が農業者と話している内容をとにかく必死にメモってました。そして、その会話の中に出てきた分からない事は本で調べたり先輩に聞いて、早く自分のモノにしたいと藻掻いていた記憶があります。仕事以外では、当時の係長がよく係の皆を宅飲みに誘ってくれたので、和気藹々の雰囲気の中で楽しく仕事ことができました。

笹村さんへのメッセージ

まずは、ビビらず農業者と積極的にコミュニケーションを取って欲しいですね。この業種は経験値が非常に重要なので、失敗を恐れずに栽培技術の提案や改善策をどんどん提言して欲しいです。農業者は優しい方々ばかりなので、寛大な心で話を聞いてくれます。あっ!!それと、先輩をイジるのは、ほどほどにして下さいね!!

「天空と大地の中で」仕事したい人、
(写真右) トレーナー 集まれ〜!!

■北海道出身

■北海道大学大学院環境科学院 修了

平成26年度入庁 [C区分採用]

日高農業改良普及センター日高西部支所

OGAWA

YOUHEI

小川 洋平



MESSAGE 16



「もの」 ではなく

「人」 も育む仕事です

■ 埼玉県出身

■ 酪農学園大学循環農学類 卒業

令和3年度入庁

上川農業改良普及センター大雪支所

INOKUCHI NOZOMI

井口 希

普及職員になったきっかけは？

大学時代「胆振東部地震後の水稻栽培」をテーマに卒業論文を書く際、厚真町の農家や普及員の方々にお世話になり、始めて普及の仕事を知りました。日頃のコミュニケーションや人柄で信頼関係を構築している姿に、「自分もそんな社会人になりたい」「そんな仕事をしたい」と思い、大学3年生の2月に受験を決めました。

現在担当している仕事は？

美瑛町で近年取り組みが始まった乾田直播と有機米の栽培基準づくりや、防除体系を組み直すため、試験設計・段取りと調査・成績のまとめをしています。また、JA主催の水稻生産者に向けた研修会の講師対応を年にのべ20回ほど行っています。日頃からほ場を見て農家と話し、情報収集をして、良い情報を農家に伝えることが自分の役割だなと感じています。

普及職員の仕事の魅力・やりがいは？

農家の奥さんと話していた時、「研修会資料の用語の意味が分からない。用語集が欲しい」と要望を受け、用語集を作成し、ラミネート加工をして全戸配布しました。ないものを作る作業は大変でしたが、何名かの農家や普及員に「これ、いいね」と言ってもらい、1人の要望にしっかり向き合うことができ良かったと感じました。

上司・同僚との関係や、職場の雰囲気は？

今年の大雪支所は9人（20代1人、30代2人、50代以上6人）で、年が近い人は少ないですが、ほどよい距離感で雑談できる環境が心地いいです。他の事務所の同期や後輩・転勤していった先輩方を含め、普及センター全体で「同じ職場」という感覚があります。

休みの日の過ごし方は？

大学時代、NPO法人で新生産・販売事業のスタッフをしていました。普及員になってからもNPO法人に関わり続けていて、毎年RISING SUN ROCK FESTIVALに薪割り体験ブース運営やごみ分別のスタッフとして参加しています。



今後の目標やチャレンジしたいこと、理想の将来像は？

農家と話していると、自分の専門担当以外のことも聞かれることが多くあります。今後は、まずは水稻と畑作の二刀流のスペシャリストを目指し、ゆくゆくは「あの普及員は何を聞いても答えてくれるから、話していて楽しいな」と思われる存在になりたいです。

道の普及職員を志望する皆さんへのメッセージ

大学の後輩に「説明会を聞いた際、普及員は頭がいい人になれるんだな、公務員だし堅そうで自分には無理だなと感じた」と言われたことがあります。自分は採用試験の筆記で一度落ちるくらい勉強が苦手ですが、農家から「井口さんの資料は俺でも分かる」と言ってもらいました。普及員にとっては、勉強ができないことも、お堅くないことも、弱みではないと思います。少しでも興味が沸いたら、ぜひインターンシップに参加してみてください。



MESSAGE 17



日本の食糧基地 北海道を
一緒に盛り上げよう!!

- 神奈川県出身
- 明治大学農学部 卒業

平成30年度入庁

留萌農業改良普及センター本所

TANAKA SHUNNSUKE

田中 駿介

普及職員になったきっかけは？

大学で学んだ内容に関連した仕事を探していた中で、教員の方や研究室の先輩に教えていただきこの仕事を知りました。北海道へは旅行でしか来たことがありませんでしたが、農業に関わる仕事をするなら日本の食糧基地といわれる北海道で！と思い立ち北海道での就職を選択しました。

現在担当している仕事は？

主に水稲の栽培技術に関する普及業務を行っています。留萌では水稲が基幹作物となっており、良食味米の産地として知られています。そのため、良食味米の安定生産にむけた基本技術励行のための情報提供や提案を行っています。また、担い手不足が大きな問題となっていることから、湛水直播栽培や高密度播種短期育苗といった省力化技術の導入支援を行っています。

今後の目標やチャレンジしたいこと、理想の将来像は？

担い手を呼び込むには農業で儲かることが重要な要素の一つで、そのためには確かな技術が必要だと思います。水稲のことであればあの人に聞けばいいと言われるような技術を身につけ、農業者の方や関係機関から信頼されるような普及員を目指していきたいです。

上司・同僚との関係や、職場の雰囲気は？

仕事だけでなく雪国での生活面のことなどでも困ったことがあれば親身になって相談にのっていただける風通しの良い職場です。また、若手職員で集まって勉強会や情報交換を行い、悩みの共有を行ったりしています。

普及職員の仕事の魅力・やりがいは？

農業者の方と一緒に解決策を考えながら提案を行う中で、感謝の言葉をいただいたり次もよろしくといったような声をかけていただいたりと、現場の声を間近で聞きながら働けることがこの仕事のやりがいだと感じます。



休みの日の過ごし方は？

春はサクラマス、夏はヒラメ、豆イカ、ソイ、秋はサケを狙った海釣りをして北海道の自然を満喫しています。また、広大な北海道でのドライブや美味しいもの巡りも楽しみの一つです。



道の普及職員を志望する皆さんへのメッセージ

農業に関連した仕事をしたい、現場により近い仕事をしたいという方は普及職員の仕事が向いていると思います。道外出身の方で見知らぬ北海道で普及員としてやっていけるか不安な方もいるかと思いますが、この仕事は日本の食を支えている北海道だからこそできるやりがいのあるものです。皆さんと一緒に働くことを楽しみにしています。



MESSAGE 18



北海道農業に貢献して、
一緒に日本の食を支えよう！

- 兵庫県出身
- 神戸大学大学院農学研究科 卒業

令和元年度入庁
胆振農業改良普及センター東胆振支所

FUJIMOTO MARI

藤本 麻里

普及職員になったきっかけは？

農協（前職）の営農経済事業部で様々な仕事を経験する中、今後は専門性を極めながら、より農業者に近いところで、力になれる人になりたいと思い、普及職員を志望しました。北海道には普及職員の知人がいたこと、また年齢制限がなかったことが、採用試験を受けるきっかけとなりました。

現在担当している仕事は？

園芸担当として、レタスやトマトなど担当地域（むかわ町）の主要な品目の窓口担当を任せてもらっています。具体的には農協職員や部会役員と連携し、現地巡回や技術情報の発信等を行っています。また新規参入者の受入を積極的に行っている地域のため、担い手センターと連携し、研修生や就農5年以内の新規参入者について、定期巡回や農業講習会等を通じた技術支援をしています。



普及職員の仕事の魅力・やりがいは？

ある程度自分の裁量で、1日のスケジュールを決められる仕事です。農業者と信頼関係を築き、感謝の言葉を頂けた時は、次も頑張ろうと思えます。また担当地域の農業振興に向け、複数の普及職員でチームになって対応したり、農業者や町・農協等の関係機関と連携して行う仕事は、より大きなことができるので面白く感じます。

上司・同僚との関係や、職場の雰囲気は？

職員12名と少人数で、和気あいあいとした雰囲気の職場です。業務で困った時は、必ず誰かがフォローして下さるので、安心して仕事できています。業務時間外では、みんなで近くの競馬場に行ったり、公宅周辺でBBQをする等、楽しい親睦行事も行っています（感染状況が許す範囲で）。

今後の目標やチャレンジしたいことは？

まずは担当品目の声を聴くことができるよう、ほ場に出向き、農業技術力UPを目指したいです。また農業者や関係機関等との信頼関係を築いたり、他産地の情報収集等しながら、地域の目指す将来像に向けて、地域と一緒に考え、提案できる職員になりたいです。

道の普及職員を志望する皆さんへのメッセージ

普及職員は、農業技術の面から、地域農業・農業者を支える仕事です。栽培方法や気象などの環境条件等で、日々作物の生育状況は変化するので、農業者と共に学びを積み重ねていくことができます。また農業技術だけに留まらず、地域と一緒に将来像を描いたり、目標に向かって対策を講じることができるのも魅力の一つです。北海道の農業に貢献したい方は、選択肢の一つとして、普及職員をご検討下さい。



MESSAGE 19



北海道の農業は魅力的です!

■北海道出身

■島根大学生物資源科学部 卒業

令和元年度入庁

留萌農業改良普及センター南留萌支所

ARAKI

KENGO

荒木 健吾

普及職員になったきっかけは？

短大時代の指導教員が北海道で普及指導員をされていた経験がある方で、その恩師から普及職員の仕事について聞いたことがきっかけで普及職員の採用試験を受けました。また、道外に出たことで、北海道の食や自然の豊かさを再認識し、魅力ある北海道へ帰る決断をしました。

現在担当している仕事は？

南留萌地区(留萌市、小平町、増毛町)は水稻を基幹作物として、畑作・野菜・果樹などを組み入れた複合経営が営まれています。私はその中で水稻を担当しており、水稻の生育や病害虫の発生状況を調査し、農業者へ栽培管理に関する情報提供を行っています。また、地域で取り組まれている水稻直播栽培技術の確立に向けた支援などにも取り組んでいます。



普及職員の仕事の魅力・やりがい、印象に残っている仕事は？

初めて若手農業者を対象とした研修会の講師を務めた際に、若い農家さんが私の話を熱心に聞いて、質問してくれたことは印象に残っており、事前に多くの時間を費やして資料の作成や説明する練習をした甲斐があったなと感じました。

上司・同僚との関係や、職場の雰囲気は？

南留萌支所は、6名と他のセンターと比べると人数の少ない職場です。振興局内にあるため、農務課や農村振興課など違う課とも交流できることも魅力です。先輩方には各分野の専門知識を教えて頂き、日々勉強しながら普及活動にあたっています。

休みの日の過ごし方は？

休みは趣味でもあるドライブや食べ歩きに出かけています。留萌管内は甘エビやタコなどの海産物やソフトクリームやチーズなど乳製品、さくらんぼやりんご等の果物と魅力ある食に溢れており、楽しい食ライフを満喫しています。

今後の目標やチャレンジしたいこと、理想の将来像は？

農業者のそばに立ち、農業者から頼りにされる普及指導員になることです。そのために専門分野に関する知識や技術をより深めることはもちろん、農業者の経営に対する分析・アドバイスができるよう農業経営についても理解を深めたいと考えています。



道の普及職員を志望する皆さんへのメッセージ

普及職員の仕事は、他の公務員と異なりデスクワークよりも現地で農家さんと直接関わることが多いやりがいのある仕事だと思います。普及職員に少しでも興味がありましたら、道庁が主催している説明会やインターンシップに行ってみるなど、直接普及指導員に話を聞いて仕事の内容を深く知ることも良いと思います。

採用試験の概要

2025年度

2023年度から「専門試験口述型」の試験を新設しました



普及職員（農業）		A区分	A区分（専門試験口述型）		C区分 （専門試験口述型）
			第1回	第2回	
受験資格	年齢など	22歳～30歳			22歳～61歳（社会人経験2年以上）
	学歴など	大学（短期大学を除く）又は都道府県立農業講習施設や農業者研修施設等（北海道内では、道立農業大学校の研究課程が該当）を卒業又は卒業見込みの方			①大学（短期大学を除く）又は都道府県立農業講習施設や農業者研修施設等（北海道内では、道立農業大学校の研究課程が該当）を卒業又は卒業見込みの方、②又は普及指導員資格を有している方
第1次試験	試験方法	職務基礎力試験（択一式） ※社会事情、文書理解、長文読解、言葉の用法、数的理解、論理的理解、資料理解 専門試験（択一式） ※作物学、園芸学、育種遺伝学、植物病理学・昆虫学、土壌肥料学、植物生理学、食品科学、家畜育種学・家畜繁殖学・家畜生理学、家畜飼養学・家畜管理学、飼料学、農業経済学、農業経営学、農業政策、農業機械	職務基礎力試験（択一式） ※社会事情、文書理解、長文読解、言葉の用法、数的理解、論理的理解、資料理解		個別面接（専門試験、人物試験）
	試験日程 試験地	6月15日 札幌市、函館市、東京都	5月11日 札幌市、東京都	9月28日 札幌市、東京都	9月28日 （専門性確認シートの作成） 11月上旬（面接） 札幌市、東京都
第2次試験	試験方法	個別面接（人物試験）	個別面接（専門試験、人物試験）		なし
	試験日程 試験地	7月上旬～中旬 札幌市、東京都	6月上旬 札幌市、東京都	11月上旬 札幌市、東京都	
最終合格発表		7月下旬	6月下旬	11月下旬	11月下旬

●採用試験の試験区分について

道以外の都府県では、行政・普及・研究でジョブローテーションを行っており、新規採用職員はいずれかの部署に配属となりますが、道では試験区分を「農業」「普及職員（農業）」等に分けて採用試験を実施しており、「普及職員（農業）」で採用となった職員が行政や研究部署へ配属になることはありません。

●専門試験口述型について

これまでに実施の1次試験での筆記型の専門試験に代え、2次試験に口述試験（面接試験）を実施することで、受験者の負担を軽減し、より受験しやすい環境を整えました。

第1次試験（筆記試験）

第2次試験（口述試験）

通常

職務基礎力試験
（択一式 30題）

+

専門試験
（択一式 40題）



人物評価面接

①面接前（1次試験のタイミング）に「専門性確認シート」を記入・提出
②面接では「専門性確認シート」の内容をもとに、5分程度プレゼン

科目数が多く勉強時間の確保が必要...

専門試験口述型
（2023年度より追加）

職務基礎力試験
（択一式 30題）



専門性確認面接

+

人物評価面接

筆記型の専門試験に代え、口述試験で専門性を確認



採用試験の実施状況



2024年度

普及職員（農業）		採用 予定数	申込者数	受験者数	第1次試験		最終合格	
					合格者数	競争倍率	合格者数	競争倍率
A区分	第1回	42	36	27	23	1.2	17	1.6
	第2回	30	15	12	11	1.1	6	2.0
C区分		20	14	11	—	—	6	1.8

2019年度～2023年度

普及職員（農業）		2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
A区分	受験者数	45	59	48	48	43
	最終合格者数	26	37	34	23	26
C区分	受験者数	18	17	8	6	13
	最終合格者数	7	10	5	4	7

道のインターンシップ

道では、学生の職業意識向上の機会や道行政への理解を深める機会を提供することを目的として、学生の夏休み期間を中心にインターンシップ（学生実務研修）の受け入れを行っています。

- ・受入対象者 大学、大学院等に在籍する学生
- ・受入時期 毎年7月～9月のうち、1ヶ月以内
※実際には、1週間（平日5日間）の希望が多くなっています。
- ・受入所属 全道各地の普及センター（14本所、30支所）
- ・申込方法 大学等のインターンシップ担当部署で取りまとめ、郵送で申込み
※学生の方は、大学等のインターンシップ担当窓口にご相談ください。



●普及センターにおけるインターンシップについて

先輩普及職員の中には学生時代に普及センターでのインターンシップに参加したという職員も多くいます。現地巡回や各種調査など実務に近い研修カリキュラムの中、具体的な業務に携われるので、入庁後イメージしやすいなどのメリットがあります。普及センターで働く楽しさを体験してみませんか？

オンライン個別相談窓口

北海道農政部では、入庁を考えている方を対象に、現場で働く職員と対面で相談ができる個別相談窓口を設けています。採用説明会などでは聞けない専門的な事項について、先輩職員に直接相談してみませんか？

●相談内容の例

- ・業務内容 ・職場の雰囲気
- ・キャリアパスや転勤
- ・先輩職員の体験談ややりがい
- ・給料や休日の過ごし方 など



くわしくはこちらから！

学生はもちろん、
社会人の方など
どなたでも
参加できます！



（QRコードは株式会社デンソーウェブの登録商標です）



給与・福利厚生など

初任給



大学新卒 220,000円（令和7年(2025年)4月1日現在）

初任給は、採用される方の学歴や経歴をもとに決定されます。C区分で採用された方など勤務経験がある場合や、大学院を修了している場合には、学歴や経歴に応じて加算されます。（原則、1年に1回昇給）

諸手当

通勤手当	住居から勤務庁の間（片道2 km以上に限る）を交通機関等を利用して通勤する場合などに支給されます。
住居手当	民間のアパート等（家賃12,000円超/月）を借りて居住する場合に支給されます。 （家賃の月額－24,000円）÷ 2（※17,000円を限度）＋ 11,000円
扶養手当	扶養親族（配偶者や子など）がいる場合に支給されます。
単身赴任手当	採用や人事異動に伴い転居し、同居していた配偶者とやむを得ない事情により別居することとなった場合などに支給されます。
期末・勤勉手当	民間のボーナスに当たるものとして、6月及び12月の年2回、人事評価の結果・勤務の状況に応じて支給されます（1年間に給料の約4.6分）。
寒冷地手当	11月から翌年3月までの5ヶ月間、毎月支給されます。（道内に勤務する職員に限る）
普及指導員手当	普及指導員の資格を取得すると、手当（給料月額の12%）が支給されます。

勤務時間・休暇

勤務時間	原則として、月～金曜日の8時45分～17時30分までとなっています。（途中1時間の昼休憩）
週休日・休日	原則として、土・日曜日、祝祭日、年末年始（12月29日～1月3日）となっています。
年次有給休暇	1年に20日（4月1日採用の場合は15日）付与され、未使用日数は20日を限度として翌年に繰り越すことができます。
その他の休暇	他に、夏季休暇（年5日）、結婚休暇、ボランティア休暇、病気休暇、忌引休暇などがあります。

子育て支援

産前・産後休暇	出産前8週間から産後8週間までの間、休暇を取得できます。
妊娠障害休暇	妊娠中の職員がつわり等で勤務困難な場合、14日以内で休暇を取得できます。
配偶者出産休暇	3日以内で休暇を取得できます。
育児参加休暇	5日以内で休暇を取得できます。
育児休業	養育する子が3歳に達する日までの間、休業を取得できます。
育児部分休業	養育する子が小学校に就学するまでの間、1日2時間以内で休業を取得できます。
育児短時間勤務	養育する子が小学校に就学するまでの間、勤務時間を短縮できます。（週19時間25分～24時間35分の勤務）
子の看護休暇	養育する子が中学校に就学するまでの間、子ども一人につき5日取得できます。



↑配偶者出産休暇中の普及職員



↑家族とのプライベートも充実！

職員公宅

道内各地に世帯用や単身者用の職員公宅が整備されており、空き状況に応じて入居が可能です。

●働き方改革の取組について

道では、仕事と子育て等を両立できる職場づくりを推進するための取組を進めています。時間外勤務の削減や年次有給休暇の取得促進のほか、職員が出勤時間を選択し退庁時間を早めたり遅めたりできる時差出勤を実施することで、公務能率の向上とワークライフバランス（仕事と生活の調和）を図っています。



よくある質問 Q&A

(採用試験)

Q1 出身地が道外ですが、不利ですか。出身大学が道外の大学ですが、不利ですか。

採用試験において、出身地や出身大学・学部などによって有利、不利になることはありません。実際に、道外出身者も多く活躍しており、しっかりとした目的を持っているのであれば、道外出身だからといって不利になることはありませんので、北海道のために働きたいと思っているのであれば、採用試験を受けてほしいと思います。

Q2 試験に合格しても、採用されないことはありますか。

最終合格者の数は、退職者数の見込などを基に決定していますので、状況によっては採用されない場合もありますが、近年は、受験時などに虚偽の申告をした場合や、健康診断の結果、勤務できない健康状態である場合などを除いて、全員が採用されています。

Q3 試験区分について、「普及職員（農業）」と「農業」の仕事には、どのような違いがありますか。

「普及職員（農業）」で採用された場合は、普及センターに配置され、普及指導員資格（国家資格）を有した職員の下、直接農家などに出向き、生産技術の指導や各種講習会を行うなど、農業生産に関わる業務に従事します。その後、普及職員として採用後2年を経過した時点で普及指導員資格試験を受験し、資格取得後は普及指導員として農業の普及指導業務に従事します。

「農業」で採用された場合は、本庁農政部や(総合)振興局等に配置され、主に北海道の農業の振興や食の安全・安心に携わる政策の推進等の業務に従事します。

(勤務条件)

Q4 土曜日出勤などがある民間企業もありますが、普及職員はどうですか。

原則、完全週休2日制で土・日曜日は休みです。ただし、生産者対応などにより、休日や夜間の勤務がある場合もありますが、時間外手当の支給や週休日の振替の対象となります。

(仕事内容)

Q5 農協でも普及センターと同様に営農指導を行っていますが、どのような違いがありますか。

農協は、組合員である農業者に対し、普及センターは全体の奉仕者として広く地域の農業者に対して支援するということで、指導対象が若干異なりますが、営農指導という面では類似点も多く、両方で協力して進める業務もあります。なお、農協職員の場合は、営農部門以外にも金融や購買部門など営農指導とは全く異なる部署に配属されることもあります。

Q6 専門項目はどのようにして決定されるのですか。自分の研究内容を活かすことはできますか。

採用後2年間の実務経験を積み、普及指導員に必要な専門知識や技術、普及方法等を身に付けていく中で、地域や農業者に対して十分な指導・支援を行う力量を具備していることを普及センター所長が確認の上、普及指導員資格取得後に決定されます。勤務地の農業形態や従事する普及指導業務等によっては大学等での研究内容を活かすことも可能です。

Q7 普及センターの畑作担当者は、冬期間どのような仕事をしていますか。

普及指導員は、地域の課題に応じて普及指導対象や指導内容、実施時期等を示した普及指導計画を作成し、計画的な普及活動を行っており、営農活動が終わった冬期間に、実績の取りまとめや次年度計画の策定・見直しなどを行っています。それを基に、農業者や関係機関・団体に講習会等で報告し、次年度の提案を行います。

(人事異動)

Q8 初任地はどのようにして決定されるのですか。

本人の希望や適性などを考慮して決定しています。

Q9 転勤は何年おきにありますか。

場合によって異なりますので一概に言えませんが、1か所での勤務年数は3年から5年となっています。

Q10 異動の際、本人の希望は通りますか。

希望する勤務地について申告する機会があります。必ずしも希望どおりの異動になるとは限りませんが、本人のキャリアプランやホームグラウンド振興局制度、ワークライフバランス等を考慮して配置するよう、道として努めています。

Q11 遠隔地への異動はありますか。

勤務地は全道各地にあるため、遠隔地への異動もあり得ますが、各地に世帯用や単身用の職員住宅が用意されています。また、民間のアパート等を借りる場合には、上限はありますが家賃に応じて住居手当が支給されます。

Q12 北海道職員は転勤が多いですが、転勤することのメリットはありますか。

転勤により、様々な地域の営農手法を知ることや関係機関・団体を含めた人脈を広げることができるため、自分自身のスキルアップに役立ちます。さらには、転勤先でチーム力が発揮できたり、より良い職場環境づくりにつながります。また、他地域の情報は、農業者から大変重宝されることもあります。

道の普及職員になろう！



先輩普及職員からのメッセージ 令和7年2月

【お問い合わせ先】

北海道農政部生産振興局技術普及課

〒060-8588 札幌市中央区北3条西6丁目

TEL 011-206-6436

E-mail nosei.nokai1@pref.hokkaido.lg.jp



普及職員の採用試験等
についてはこちらから
(道 技術普及課HP)